



今日のトピック 好調さが続くユーロ圏経済（2018年1月）

10-12月期も潜在成長率を上回る成長を実現

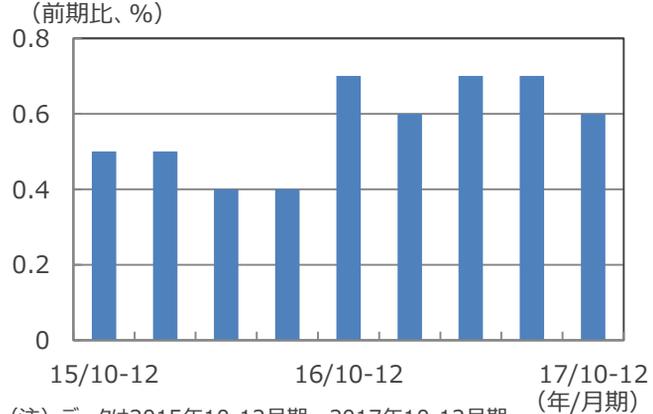
ポイント1

堅調な経済成長

景況感も良好な水準を維持

- 2017年10-12月期のユーロ圏の実質GDP成長率（速報値）は前期比+0.6%、前年同期比+2.7%となりました。ユーロ圏経済は、1%台前半と見られる潜在成長率を上回る拡大が続いています。
- 欧州委員会による1月のユーロ圏総合景況感指数は114.7と、前月の115.3から改善が一服しました。また、鉱工業やサービス業の信頼感指数は市場予想を下回りましたが、良好な水準を維持しています。

【ユーロ圏の実質GDP成長率】



(注) データは2015年10-12月期～2017年10-12月期。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2

物価上昇は停滞気味

ECBは今月から量的緩和を縮小

- ユーロ圏の12月の消費者物価指数は前年同月比+1.4%でした。欧州中央銀行（ECB）が目標とする+2%近傍を下回っているものの、需給ギャップの縮小や原油価格の上昇により、今後は上昇率が緩やかに高まってくると考えられます。
- ECBは、1月下旬の理事会で、政策金利を据え置きました。量的緩和策については、今月から資産購入額を月300億ユーロへと半減します。期間は2018年9月末までとなっています。

【ユーロ相場】



(注) データは2015年1月1日～2018年1月30日。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

利上げは2019年に実施へ

- 市場ではECBの金融緩和姿勢が変化したとの見方が優勢となり、ドル安ユーロ高が進みました。これに対し、ドラギ総裁は年内利上げの可能性を否定したほか、米高官によるドル安を容認する発言をけん制しました。将来の金融政策に対する考え方を示すフォワードガイダンスの変更は、年央にかけて行われると見られます。
- ユーロ圏経済は依然堅調で、今後は物価や賃金の上昇ペースが徐々に高まると考えられます。ただしその上昇ペースは緩慢なものにとどまると見られ、利上げは2019年に実施されると見込まれます。当面は現在の低金利や輸出などに下支えされて、ユーロ圏経済は好調さが続く予想されます。

**ここも
チェック!**

2018年1月26日 **ECBの金融政策は据え置き（2018年1月）**
2018年1月24日 **混迷するドイツ『連立協議』の進捗に光**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。